

# 薬用植物園だより

2024年

3月

ピリッと辛い開花直前の“つぼみ”が生薬に！

コブシ (モクレン科)



*Magnolia kobus* De Candolle

部位	つぼみ
生薬名	辛夷 (シンイ) <b>局方収載</b>
成分	シネオール (モノテルペン) (+) -コクラウリン (アルカロイド)
薬理	抗炎症作用、抗アレルギー作用
薬能	辛温解表薬、鼻閉や頭痛を改善 (通竅)
漢方	葛根湯加川芎辛夷、辛夷清肺湯

日本国内では、北海道、本州、九州に分布する落葉高木で、大きくなると20mに達することもあります。観賞用として公園などにもよく植栽されており、3月から4月頃に白い花を見ることができます。和名は、果実が「集合果」という形状で、ひとの握り拳に似ていることに由来しています。コブシは花のすぐ下に緑色の葉が一枚付くので、タムシバと見分けることができます。薬用部位は、“つぼみ”で辛夷 (シンイ) と呼び、“つぼみ”を噛むとピリッと辛いです。漢方では、鼻閉を通す作用があるとされ、漢方薬に配合されてきました。20mにもなる高木に付く“つぼみ”をどのようにして集めるのだろうかと思いますが、積雪した山では、簡単に手が届くそうです。

シキミ (マツブサ科)

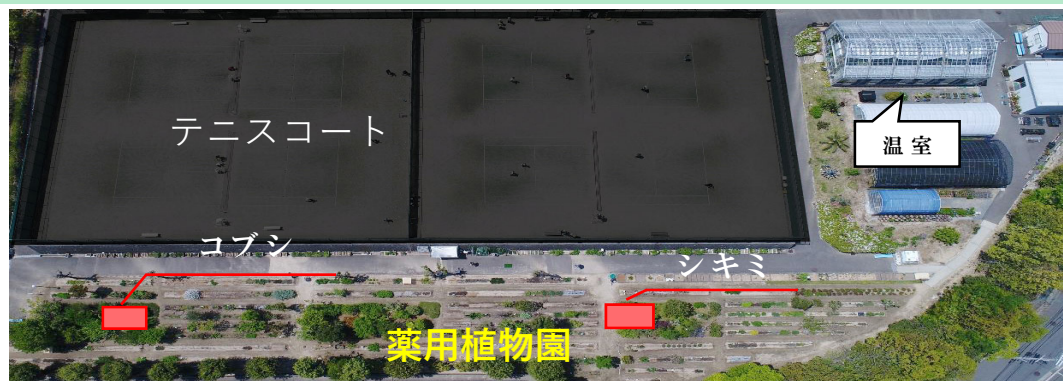
八角と間違わないで！！有毒です。

*Illicium anisatum* L.

生薬名	使用しない <b>有毒</b>
成分	アニサチン (セスキテルペン) サフロール (フェニルプロパノイド) など



本州、四国、九州、沖縄に分布する常緑小高木。高さは10mぐらいになりますが、関東以西では高さが2～3mほどのものが多いです。墓地に植栽されたり、供花として利用したりしますが、かつて土葬であった時代に獣除けとして使われた名残ではと考えられています。漢字の木へんに佛 (仏) の「榊：しきみ、櫛とも書く」も、神前にお供えする「榊：サカキ」に対する文字です。全体に有毒成分のアニサチンを含みます。特に果皮の毒性が強く、誤食すると嘔吐、意識障害、けいれんを起こし、重症の場合は死に至ります。同属のトウシキミの果実である「八角」(香料、生薬名：大茴香)とよく似ていることから注意が必要です。日本にはトウシキミは自生していません。野外で八角らしきものを見つけた時は、シキミなので絶対に利用してはいけません。



ホームページでも  
ご覧いただけます